

比・地滑り AMD A、派遣を検討 支援の手、続々始動

NGOや
防災機関

フィリピン・レイテ島で17日発生した地滑り災害で、アジア25カ国が参加してつくる防災機関「アジア防災センター」(神戸市中央区)は、一報が入った同日夕から職員らが情報収集に追われ

た。事務所が隣り合っている国連人道問題調整事務所(OCCHA)と協力して、昨年末まで同センターの客員研究員だったフィリピン政府防災局職員と電子メールでやりとりし、被害状況の把握に

努めた。――面参照
同センターは今日14日、ホームページの「最新災害情報」に、大雨によるフィリピンの鉄砲水被害を挙げており、警戒を強めていた矢先だった。フィリピンは、同セ

ンターが発足した98年当初からのメンバー国。01年からフィリピンの農村支援に取り組んでいる市民団体「JPCOM」(本部・兵庫県西宮市)の桑原英文代表は17日夕、マニラの現地事務所に状況把握を指示した。

国際医療NGO「AMDA(本部・岡山市)」は17日夕、緊急救援のため職員派遣を検討し始めた。AMD Aフィリピン支部などを通じて情報

を収集し、被災地の医療ニーズの有無や、現地での受け入れ態勢の見通

し、すぐに派遣できる人材がいるかどうか、などを探っているという。